

遺跡などで出土 瓦や茶碗を展示

市中央図書館

掛川市の第十九回出土文化財展が、市立中央図書館で開かれている。二〇二二年度に発掘調査をした吉岡原遺跡（吉岡）の出土品や、史跡・横須賀城跡（山崎）で災害復旧工事の際に見つかった瓦や陶磁器など計三十四点を展示している。十八日まで。

横須賀城跡は昨年七、九月の大雨で本丸と西の丸の斜面が崩れた。会場には崩落土に含まれていた戦国時

代末期の瓦や江戸時代前期の天目茶碗などが並ぶ。徳川配下の印象が強い横須賀城だが、家康が関東に移つ



吉岡原遺跡や横須賀城跡の出土品などを展示する会場
＝掛川市立中央図書館で

た後の一五九〇年代、豊臣配下の城主時代の瓦などが見応えがある。

吉岡原遺跡の発掘調査は、茶園の改植が計画されたのを機に行い、記録後に埋め戻した。調査面積六百平方メートルで弥生時代後期の竪穴住居跡二軒などが確認された。会場では調査の流れ

が分かる写真や、出土した高坏などの土器が見られる。

修復工事中の松ヶ岡（旧山崎家住宅、南西郷）に関しては、静岡文化芸術大学の学生が立体的に作成した紙の建築模型「起こし絵図」などを展示している。

（中野吉洋）